



# 大島事業所トピック

No. 319

島しょ農林水産総合センター大島事業所発行  
〒100-0212 東京都大島町波浮港18  
Tel 04992 (4) 0381 Fax 04992 (4) 0383  
ホームページ <http://www.ifarc.metro.tokyo.jp>

平成19年2月6日

## キンメダイの赤ちゃん探し

--- プランクトンネットによるキンメダイ資源調査 ---

キンメダイはどこで生まれ、どのように成長するのか、といった初期生活史は不明な点が多く、稚魚の伊豆諸島での分布状況などは、ほとんど分かっていませんでした。そこで、大島事業所では2003年から調査指導船「みやこ」にネット類などの機器を新たに搭載し、キンメダイの赤ちゃん探しを開始しました。

### キンメダイの赤ちゃんはどこに？

キンメダイは水深200～800mに生息し伊豆諸島の底釣り漁の対象種として重要な魚です。しかし、キンメダイの赤ちゃん(仔稚魚<sup>※</sup>)の採集例は世界的にみても少なく、この期間の生活史は未解明のため、2003年から調査を開始しました。2004年には八丈島の北側にある黒瀬海域で、孵化直後(全長2.0mm前後)から仔魚期(体長8.7mm)までのキンメダイを約400個体採集しました。その結果、キンメダイの仔魚は水深100mよりも浅い場所に多く分布することが分かりました。

### 完全な形の稚魚採集に成功！

さらに、採集された標本を詳細に分析した結果、鰭が未発達な遊泳力の弱い仔魚は水深300mから表層までに分布し、鰭が形成されて遊泳力がついてくると、水深50～100m



写真1 キンメダイ稚魚(体長14.8mm)

付近に分布する傾向が確認されました。これは、遊泳力のない時には比重によって分布水深が決まり、遊泳力がついてくると、自分に適した水温や餌の豊富な水深に移動すると考えられます。そして、2006年8月25日に黒瀬海域の水深約100m付近を曳いたMTDネットのサンプルから、体長約15mmの稚魚が採集されました。この個体は体形もすっかり親のキンメダイと一緒に、背鰭と腹鰭の鰭条が長く伸びていました(写真1)。仔稚魚の鰭条はとても壊れやすく、ほぼ完全な形で採集されたのは世界的にみても極めて貴重な標本とされます。キンメダイの体長20cm前後の幼魚(写真2)では、背鰭の鰭条が長く伸びることが知られていましたが、体長1cm前後ですでに伸びていることが確認されました。

このように、伊豆諸島におけるキンメダイの赤ちゃんに関する情報を蓄積することによって、キンメダイへの資源管理に役立て、おいしいキンメダイをいつまでも食べられるよう努力していきます。



写真2 キンメダイ幼魚(尾叉長187mm)

※<sup>きじょう</sup>鰭条(鰭のすじ)が成魚と同じ本数になる前を仔魚、後を稚魚と呼びます。